

高きゴールを目指す パース・ウィルキャッツ 走り続けるアスリートたち

パース・ウィルキャッツとは



Logo Courtesy of The Perth Wheelcats

チームについて

2001年よりオーストラリア・車椅子バスケットボールリーグ (NWBL) に参加しているパース・ウィルキャッツは、北京パラリンピック豪州代表監督ベン・エトリッジの指導のもと、豪州代表選手でイタリアのプロリーグでも活躍しているブラッド・ネス、ジャスティン・イヴサン、ショーン・ノリスと、女子豪州代表選手、成長著しい若手選手、そして元日本代表の岩

昨シーズン、NWBLで2度目の王冠を手にしたパース・ウィルキャッツは、今オーストラリアで最も勢いのあるチームの1つだ。ここでは、車椅子バスケットボールに夢を懸けるパース・ウィルキャッツと全メンバーを紹介していく。



昨シーズン優勝時のチームメンバー

Photo Courtesy of Marion McNeill - www.photoexcellence.com.au

野博の活躍で、毎年上位に名を連ねてきた。優勝回数は2002年と2006年の2回。昨シーズンの同リーグ優勝チームとして、

今年10月に北九州市で行われる世界クラブチャンピオンズカップへの出場が決定している。



持ち点制度について

車椅子バスケットボールでは、各選手にそれぞれの障害の程度が重い順から1.0～4.5の持ち点が定められており、コート上でプレーをする5人の持ち点の合計が14点を超えてはいけない。各持ち点は、車椅子バスケットボールをプレーする



Photo Courtesy of Marion McNeill - www.photoexcellence.com.au

にあたっての選手の身体能力や、プレー範囲などにより決められている。このルールは、障害の程度の軽い選手だけが試合に出場するのを防ぎ、障害によって出場機会が限られないようにするためにある。各チームの監督はこのルールによって、確実に得点を取れる選手だけを選ぶわけにはいかないため、選手の采配が勝敗を決める重要な要因となる。各持ち点の一般的な判断基準は右記の通り。

- 1.0 基本的に背もたれから離れてのプレーはできない。バランスを崩した時は手を使わなければ起き上がれない。基本的に胴体をひねることができない。
- 2.0 前傾姿勢をとることができるが限界がある。胴体上部をひねることができるが、下部の回転には限界がある。
- 3.0 前傾姿勢から手を使わずに起き上がることができる。胴体の回転はできるが、側屈運動ができない。
- 4.0 胴体を自由に動かせるが、障害を持つ足の方への側屈運動には限界がある。
- 4.5 胴体をどの方向にも動かすことができる。

※選手の運動機能が2つの持ち点 (例: 1.0と2.0) の判断基準にまたがる場合などは、0.5点を加えられる (例の場合は1.5となる)。

※男女混合チームに出場する女子選手には1点の減点、各シーズンが開幕する年の4月1日までに20歳以下の選手などには出場の際1点の減点がされる。

詳しくは、NWBLのウェブサイトを参照下さい。 <http://nwbl.sports.org.au>